

オオクチバス防除の課題と展望

全国ブラックバス防除市民ネットワーク

事務局長 小林 光

2005年6月1日の外来生物法施行時にオオクチバス、ブルーギルが特定外来生物に指定されたことを契機に、全国ブラックバス防除市民ネットワーク（ノーバスネット）が2005年11月27日に設立され、それ以降ちょうど11年が経過しました。

ノーバスネットは、ブラックバス等の外来魚が全国各地の河川湖沼に広がり甚大な影響を与えている現状を見かねて、これらを防除し、各地において守りたい・取り戻したい生態系を維持・回復するために市民団体が連携し、情報の交換・蓄積、防除技術の開発などを行ない、防除活動の輪を全国に広めていくことを目的として設立された市民による連合体です（参考資料1）。

設立当初は15団体でしたが、現在では44団体が参加しています（参考資料2）。

ノーバスネットの主な活動は、会員団体がそれぞれの地域で実施する外来魚防除活動のほか、外来魚防除に関する普及啓発活動です（参考資料3）。全国的なキャンペーンとしては、2006年度～2010年度に「全国一斉ブラックバス防除ウィーク」を、2012年度～2014年度に「水辺の生き物保全活動」を実施しました。その結果、参加団体数は延べ2千団体以上になり、参加者数も延べ13万人を超えました（参考資料4）。また、広報用の冊子4種、ニュースレター「にぎやかな水辺」（1号～8号）の制作も行ってきました。

設立以来11年におよぶ活動を通じて感じたことを幾つか挙げてみます。

【1】活動の継続及びプラットホーム構築が大事であること。

ため池など閉鎖的で小規模な水域ではオオクチバスの完全駆除に成功した事例（例：横浜市・三ツ池（参考資料5））がありますし、駆除活動の継続により外来魚の生息密度を大幅に低下させることができた池沼もあります。また、継続し繰り返して防除活動を行っていることで、密放流を抑止できる可能性も見えてきました。

“やればできる”ということは実証されました。ただ、ノーバスネット会員団体がそれぞれの地域で守りたいと思っている生態系においても、貴重種の危険分散や遺伝的多様性の保全を図る上で1か所だけの保全では不十分であり、複数の生息地保全が重要性です。しかしながら、我々NGOが対処できるのは1つの団体でせいぜい1～2所に過ぎません。今後は、地方自治体の協力も含め活動を一層連携強化して外来魚対策に取り組む必要があると思います。

【2】再放流（キャッチアンドリリース）の禁止が重要であること

特定外来生物指定後の取り組みによって、ため池や湖沼を中心にオオクチバスが減少した水域が増加し、周辺水域では在来魚の増加が見られている一方、外来魚の密放流が未だに後を絶たない現実があります。密放流者は特定できないもののバス釣り人（バサー）によるキャッチアンドリリース（C&R）が容認されていることが一因であると考えています。外来生物法の上では特定外来生物を「放すこと」は禁止されていますが、環境省の解釈でバスのC&Rは「放すこと」に当たらないとされているのです。この点が改善されないと、密放流→バス釣り→C&R→密放流の悪循環が続くように思います。

【3】アメリカザリガニの防除も重要な課題であること

ノーバスネットではこれまで外来魚中心の対策でしたが、設立趣意書にも書かれているとおりブラックバス等以外の問題への対策もおろそかにはできません。近年では、アメリカザリガニ、ウシガエル、ミシシippアカミミガメの影響も甚大であることに目を向ける必要があると思います。特に、アメリカザリガニはバス駆除により一層増殖する事例が多く、生態系を保全する上でオオクチバスとアメリカザリガニ両者の駆除を同時に進める必要があると考えます。

まずは、私たちの意識変革が重要です。

- ①今まで放置されてきたアメリカザリガニ対策が淡水域における緊急の課題と認識し、
- ②アメリカザリガニの現状のイメージ「身近で親しみやすい水辺の生き物」を、正しいイメージ「水辺の自然を簡単に破壊する困った生き物」に変えることが今後の課題と思います。

そのために、教育機関（特に初期教育機関）への周知・啓発、行政、博物館への協力要請、一般に向けた広報等を早急を実施する必要があると思います。

(参考資料1)

全国ブラックバス防除市民ネットワーク設立趣意書

このたび、私たち「全国ブラックバス防除市民ネットワーク発起人会」は、「全国ブラックバス防除市民ネットワーク」を設立致しました。今年6月1日、外来生物法（特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律）が施行され、ブラックバス等（オオクチバス、コクチバス、ブルーギル）が特定外来生物に指定されましたが、現実的には、これらの外来魚は全国各地の河川湖沼に広がり、被害や影響を与え続けています。これらの外来魚を防除し、各地において守りたい・取り戻したい生態系を維持・回復するためには、各地の市民団体が連携し、情報の交換・蓄積や防除技術の開発などを行ない、防除活動の輪を全国に広めていくことが不可欠だと私たちは考えました。そして、そうした役割を担うものとして「全国ブラックバス防除市民ネットワーク」を位置づけ、ブラックバス等の防除に取り組む全国各地の市民団体の皆様に、参加を呼びかけていくことと致しました。

ブラックバス等の防除は簡単ではありません。調査や駆除や密放流防止に膨大な時間・労力・資金がかかるうえ、防除の必要性を地域の人たちに理解していただき、協力を得るためにもたいへんな労力を要します。効率的・効果的に、そして継続して防除をおこなうためには、各地で活動を行っている団体が互いに支えあい、さらに行政や漁協など、さまざまな立場の組織・団体と連携を保っていくことが必要と考えます。

一方、私たちのめざしていることは、ブラックバス等を防除するだけでは達成できません。ブラックバス等の防除に取り組む多くの団体は、地域の希少魚類や在来生態系などを守りたい・取り戻したいという動機から、やむなくブラックバス等の防除を行なっています。大事なのは、「それぞれの地域で最終的に守りたい・取り戻したい生態系の目標像」を明確に持ち、その中にブラックバス等の防除を位置づけながら、防除を続けていくことです。これはたいへんむずかしいことですが、この目標をしっかりと立てられなければ、外来魚の駆除そのものが目的になったり、ブラックバス等以外の問題への対策がおろそかになるなどして、「それぞれの地域で最終的に守りたい・取り戻したい生態系の目標像」からかえって遠のいてしまう結果を招きかねません。

全国ブラックバス防除市民ネットワークは以上の考えに基づいて、各地域がそれぞれの最終目標に向けて最善の活動が行なえるよう、意見交換をおこない、互いに支えあう関係を築きたいと考えています。そして、このような視点から、立場の違う組織や団体とも意見交換を行なうことで、日本の内水面の維持・回復のために一定の役割を担いたいと願うものであります。

ブラックバス等の防除に取り組んでおられる市民団体の皆様には、ぜひともネットワークにご参加をいただきますよう、お願い申し上げます。また、行政、内水面漁業協同組合、学会、報道などに携わる皆様には、さまざまな形で連携、あるいはご協力を賜りますようお願い申し上げます。

2005年11月27日 全国ブラックバス防除市民ネットワーク発起人会

(参考資料2)

全国ブラックバス防除市民ネットワーク

(ノーバスネット)

会員名簿 (五十音順)

(2016. 9. 9現在: 44団体) (NPO)

秋田水生生物保全協会

阿武隈生物研究会

生駒の自然を愛する会

(NPO) エコパル化女沼

岡山淡水魚研究会

香川淡水魚研究会

(NPO) かごしま市民環境会議

霞ヶ浦チャネルキャットフィッシュバスターズ

亀岡市地球環境子ども村

(NPO) 亀岡人と自然のネットワーク

亀成川を愛する会

神崎川を守るしろい八幡溜の会

外来魚問題連絡会 in 北海道東北ブロック

近畿大学バスバスターズ

(NPO) くすの木自然館

佐渡在来生物を守る会

滋賀県大生き物研究会

(NPO) 穴塚の自然と歴史の会

(NPO) シナイモツゴ郷の会

城北水辺クラブ

(一社) 水生生物保全協会

(NPO) 生態工房

生物多様性研究会

生物多様性保全ネットワーク新潟

ゼニタナゴ研究会

土浦の自然を守る会

(NPO) 鶴岡淡水魚夢童の会

手賀沼水生生物研究会

東海タナゴ研究会

東京勤労者つり団体連合会

ナマズのがっこう

琵琶湖外来魚研究グループ

びわ湖サテライトエリア研究会

琵琶湖を戻す会

ブラックバス問題新潟委員会

ぼてじゃこトラスト

水辺づくりの会 鈴鹿川のうお座

(NPO) 水辺と生物環境保全推進機構

深泥池水生生物研究会

三ツ池公園を活用する会

(公財) 宮城県伊豆沼・内沼環境保全財団

宮城大学自然研究部

淀川水系イタセンパラ研究会

淀川水系イタセンパラ保全市民ネットワーク

(参考資料3)ノーバスネットの主な活動一覧

年度	主な活動
H17	2005 ノーバスネットの設立
H18	2006 バスの密放流アンケート 全国のブラックバス管理釣り場リストの作成 全国一斉ブラックバス防除ウィークの実施 冊子「市民によるブラックバス防除活動(STOP! ブラックバス)」の発行 ポストカードによる「河川湖沼保全サポーター」事業の実施(全内漁連との協働) 全内漁連からの漁具等の貸与事業の開始
H19	2007 全国一斉ブラックバス防除ウィークの実施 冊子「市民によるブラックバス防除活動(STOP! ブラックバス)2007年度版」の発行
H20	2008 全国一斉ブラックバス防除ウィークの実施 冊子「NO BASS GUIDEBOOK 2009」の発行 ブラックバス等駆除実施市民団体リスト作成
H21	2009 全国一斉ブラックバス防除ウィークの実施(集計せず) 市民による「外来魚がいない水辺づくり」活動の実施
H22	2010 全国一斉ブラックバス防除ウィークの実施 市民による「外来魚がいない水辺づくり」活動の実施 徳島県北島町今切川における水辺整備事業に関する要望書を町長あて提出
H23	2011 琵琶湖の釣り大会に関し滋賀県知事あて意見書提出 冊子「外来魚のいない水辺づくり」発行
H24	2012 水辺の生き物保全活動の実施 雑誌「にぎやかな水辺」発行(1号) NHKの道徳ドキュメント『ブラックバスは人気者?悪者?』に関しNHK製作局長あて是正申入書提出
H25	2013 水辺の生き物保全活動の実施 雑誌「にぎやかな水辺」発行(2号~5号) ブラックバスの漁業権を有する4湖沼の関し環境省、水産庁、山梨県、神奈川県に対し漁漁権免許の 外来種被害防止行動計画案に対する意見書を環境省に提出 京都府亀岡市のアユモドキ保護に関する要望書を京都府知事・亀岡市長あてに提出
H26	2014 水辺の生き物保全活動の実施 雑誌「にぎやかな水辺」発行(6号~8号) 京都府亀岡市のアユモドキ保護に関する意見書を京都府知事・京都府公共事業評価委員会あてに提出
H27	2015 水辺保全と外来種問題のためのプラットフォームづくり
H28	2016 水辺保全と外来種問題のためのプラットフォームづくり

(参考資料4)全国キャンペーン活動実施状況

キャンペーン活動	実施行事数	参加団体数	参加者数
H18 2006年ノーバスウィーク	29イベント	93	2,405
H19 2007年ノーバスウィーク	31イベント	110	3,809
H20 2008年ノーバスウィーク	34イベント	129	4,166
H21 2009年ノーバスウィーク	集 計 せ ず		
H22 2010年ノーバスウィーク	83イベント	323	12,876
H24 2012年水辺の生き物保全活動	161イベント	398	25,565
H25 2013年水辺の生き物保全活動	142イベント	445	32,945
H26 2014年水辺の生き物保全活動	128イベント	285	34,477
H27 2015年水辺の外来種問題普及啓発活動	238イベント	331	11,843
集 計	846イベント	2,114	128,086

(参考資料5)三ツ池公園の生物相(池干し記録)

三ツ池公園: 上の	2008年2月	2015年10月
オオクチバス	154	0
ブルーギル	2,510	2,235
タイリクバラタナゴ	0	0
アメリカザリガニ	140	148
ウシガエル	0	6,162
アカミミガメ	12	7
ワニガメ	1	0
モツゴ	48	欠測
トウヨシノボリ	0	欠測
コイ	生息	欠測
フナ	生息	欠測
ナマズ	0	欠測
ドジョウ	0	欠測
イシガメ	0	欠測
クサガメ	0	欠測
スッポン	1	欠測
エビ類	11	欠測
モクズガニ	0	欠測
ヤゴ	0	欠測
合計	2,877	8,552

三ツ池公園: 中の	2011年2月	2012年11月	2016年1月
オオクチバス	25	2	0
ブルーギル	1,447	1,506	6,950
タイリクバラタナゴ	0	0	0
アメリカザリガニ	12	88	2
ウシガエル	124	0	26
アカミミガメ	11	8	11
ワニガメ	0	0	0
モツゴ	9,263	48,611	37,600
トウヨシノボリ	366	3,255	320
コイ	生息	生息	生息
フナ	生息	生息	生息
ナマズ	0	6	2
ドジョウ	0	4	6
イシガメ	1	2	0
クサガメ	5	5	10
スッポン	0	2	0
エビ類	3,671	4,610	750
モクズガニ	0	0	0
ヤゴ	0	10	4
合計	14,925	58,109	45,681

三ツ池公園：下の	2012年1月	2013年9・10月	2016年10月
オオクチバス	2	0	0
ブルーギル	4,831	13,600	6,300
タイリクバラタナゴ	4	0	0
アメリカザリガニ	10	268	13
ウシガエル	7	5,100	5
アカミミガメ	8	4	0
ワニガメ	0	0	0
モツゴ	26,371	43,700	8,500
トウヨシノボリ	2,633	550	1,200
コイ	生息	生息	生息
フナ	生息	生息	生息
ナマズ	6	1	0
ドジョウ	0	0	1
イシガメ	3	0	0
クサガメ	3	2	0
スッポン	6	0	0
エビ類	3,201	1,130	12,000
モクズガニ	1	1	14
ヤゴ	0	53	6
合計	37,086	64,409	28,039

※駆除実績 2006.7-2016.10

池干し	8回
駆除活動	134回
活動参加者数	39,000人
ブルーギル駆除	260,000匹
アメリカザリガニ駆除	109,000匹

出典：三ツ池公園水辺クラブの資料より